

議員とかたろう会 意見及び質問書（令和4年10月25日）

【質問・要望】

①子ども学習塾がやまってしまっている。予算がないからと聞いたが、教育は充実すべきで、子ども学習塾の予算は削減しないでほしい。

〔回答〕 教育総務課

教育の充実についての現在の取り組みとして、各教室の換気や消毒など感染症対策の補助等により教員の業務を支援するスクール・サポート・スタッフの配置や、一人一台端末を使用したオンライン学習など、コロナ禍においても「学びを止めない」取り組みを優先して実施しているところです。

②今寺の通学路の歩道が危険である。いつ整備されるのか。

〔回答〕 建設課

今寺交差点から県道嬉野下宿塩田線の区間において、歩道設置計画図面が昨年末に佐賀国道事務所より示されましたので、これに伴い地権者等を対象とした説明会を開催し、出席していただいた地権者の方には、現地での用地幅杭設置の同意をいただいたところで、欠席された方にも随時同意いただく旨の文書を送付しているところです。

なお、整備につきましては用地の確保が出来次第での着手となりますので、現時点においては明確な回答が出来ない状況です。

しかしながら、長年の懸案事項でもございますので、1日も早く整備が出来るよう努力してまいりたいと思います。

③国はマイナンバーカードの普及を進めているが、嬉野市でのマイナンバーカードの取得率を知りたい。

〔回答〕 市民課

令和5年1月31日現在の嬉野市における取得率は、75.17%です。

④庁舎が嬉野町になると老人の移動手段がないので対策を考えてもらいたい。

〔回答〕 企画政策課

窓口サービス（住民票の交付や申請書等の受付など）については、これまで

どおり塩田庁舎で対応していきます。専門的な相談については、基本的に新庁舎に来庁していただく必要がありますが、ICT（リモートでの相談等）を活用して塩田庁舎でも専門的な相談への対応ができるようにしたいと考えています。

⑤新型コロナ感染症の拡大に伴う経済対策として、鹿島、武雄、波佐見など周辺自治体はクーポン券や商品券で助かったという声を聞くが、嬉野市だけなかった。うれしかードに限定してあるが、使える店舗に限りがあり、使い勝手が悪い。商品券とかで配ってほしかった。

〔回答〕 **観光商工課**

「うれしかード」は、地域内でしか利用できない限定的なカードであり、投入する原資が、市外へ流れることなく、確実に市内での消費につながり、循環性の高いカードであると認識しています。市内での消費活動を促す仕組みとして、積極的に活用をしたいと考えています。

商品券ではなく、カード事業は、「使い切りではなく、事業終了後も継続して市民が市内の店舗で買い物をするきっかけに」、また将来的に、「市民カード」として定着させ、例えば「健康マイレージ」や「ボランティアポイント」として付与できるように、一過性のものではなく、引き続き活用できるようにするためのものです。

⑥駅と町部を結ぶシャトルバスを作ってほしい。

〔回答〕 **新幹線・まちづくり課**

現在、駅と町部を結ぶ路線バス（祐徳バス、JR九州バス）が1時間あたり2～3本運行しておりますので、そちらをご利用いただきたいと思います。

また、取り組み中の未来技術地域実装事業で、地域の皆さまや観光客の利用を視野に入れて、駅と温泉街を結ぶ自動運転車両の導入を検討しています。

⑦移動手段の確保のために地域交通の充実を図ってほしい。また、買い物ができるように移動販売を推進してほしい。

〔回答〕 **新幹線・まちづくり課、福祉課**

地域交通の充実に関しては、令和3年度に策定した「嬉野市地域公共交通計画」に基づき、地域の実情に合った公共交通の確保に努めてまいります。

また、買い物支援については、生活支援体制整備事業において、様々な地域の課題解決に向けて検討を行っており、移動や買い物の問題についても、ボランティアの協力による取り組みも実施していますが、まだまだ多くの地域で困難である状況と認識しています。移動販売についても、買い物支援の一つの方策として、生活支援体制整備事業の中で関係者と協議を行いながら、検討をしていきたいと考えています。

⑧市道永尾線の通行止めはいつまで続くのか、復旧工事を進めてほしい。また、迂回路となる羽白越線の整備を進めてほしい。

**〔回答〕 建設課**

永尾線の地すべりにつきましては、昨年末に国の災害査定があり認可をいただいたところです。今後発注に向けた準備を進めておりますので、今しばらくお待ちいただければと思います。

なお、現地の工事を令和5年度から令和6年度までの2か年で完了する予定であります。また、羽白越線の整備につきましても離合箇所の設置をするなどの事業も併せて進めているところです。

⑨避難する際に、近所の公民館を避難所としてできないのか。

**〔回答〕 総務・防災課**

地域の公民館（地区公民館）は、行政区又は自主防災組織で自主的に開設していただく必要があり、通常市としては公設の避難所への避難を呼びかけています。

しかしながら、状況によっては地区公民館に避難していただくのが有効な場合もあり、日ごろより行政区や地域コミュニティの皆様との協議を重ねながら、どのような運用が可能か検討してまいります。

⑩大雨による避難等で避難行動要支援者名簿等は民生委員には情報があるが民生委員の負担が大きい。地域消防団部長くらいまでに開示できないか。

**〔回答〕 総務・防災課**

嬉野市消防団は、災害時には災害対策本部に組織されますので、各部の判断ではなく、団としての活動に従事することとなりますが、災害対策本部が組織されない場合には、地域の一員として自主防災組織等の活動支援も行うことが

できると考えます。

ただし、個人情報の管理の問題がありますので、避難行動要支援者名簿等を消防団が管理するのではなく、団員が日ごろから自主防災組織や行政区と連動して災害対応にあたれるよう、訓練、支援を行ってまいります。

⑪消防団員の定数の見直しと編成を検討すべきではないか。

〔回答〕 総務・防災課

消防団の処遇改善(報酬、手当の見直し)に関しては、総務省より通達がされており、消防団員の確保と良好な運営のために参考にさせていただきたいと考えております。

これに併せて、消防団員の定数の見直し、部の統廃合に関しても検討が必要な状況でありますので、適正な人員等につき今後団との協議を進めてまいります。

⑫火災時に使用していない消防車(車検済)が大舟・真上吉田・鍋野にある。市役所に配置して有事に消防団に入っている市役所職員が出動してほしい。

〔回答〕 総務・防災課

現在市職員は各分団・部に所属しており、火災発生エリアに該当する職員は所属の部より出動し、出動する必要のない職員もおります。

無論繁忙期もあり、業務外ですので業務命令は出せませんが、迅速な消火活動のためには職員の出動は有効だと思われまますので、検討の余地があると考えております。

⑬空き家対策や相続登記の促進、空家の解体など対策を推進してほしい。また、移住者の空き家の改修等は地元業者優先での空き家対策をしてほしい。

〔回答〕 総務・防災課、企画政策課

老朽空き家の管理、相続登記は、所有者が自ら行うのが原則ですので、危険箇所など市民からの通報があった際は、所有者に連絡を取って対応をお願いしているところでございますが、十分な管理が行き届いていない状況です。

解体費補助に関しても予算措置をしておりますが、自己負担も多く、補助金の活用は進んでおりません。

移住者の空き家の改修等につきまして、地元業者を優先してほしいとのご意見ですが、空き家の改修につきましては、個人の財産の範囲となること、また地元業者を優先させることは公正な取引のルールに反することからご意向には沿えないものと考えます。

また、以前は地元業者での改修のみに補助金を出していましたが、実際の利用者より使いにくいとの苦情もよせられ、補助金を使う方に敬遠され、補助金制度の目的である「空き家の利活用の推進」にとってむしろ悪影響がでていました。

このようなことから、移住者の空き家の改修補助制度については、その施工業者について制限を行っておりません。

ただ、嬉野市HPでもお知らせしたり、商工会を通じて、移住希望者の家屋改修に関してご協力いただける地元業者の方を募集する取組みを行っております。この取組みは、他所から移住してこられる方にとって、改修の見積や施工を行っていただけるツテがないことを補うために始めましたが、現在のところ協力いただける地元事業者は残念なことにありません。

何軒か直接交渉を行ったこともありますが、見積いただいても受注につながるか分からないため、地元事業者の方も積極的にご協力いただけるものではありませんでした。

個人の財産の拡充に関して、公正な取引の推進という観点から、補助金支出を地元の事業者の方に限定することは不相当だと考えますが、地元の事業者の方には地理的・距離的なアドバンテージがあるため、実際には8割以上の方が地元の事業者の方を利用してリフォームされております。

## 【意見】

### <学校>

①中学生の下校時にみゆき通りの街路灯が片側は点いているのに片側は点いていない。ついていない方は暗くて危険である。

### <行政>

- ②市役所職員にもっと地域活動に参加してほしい。
- ③公会堂がなくなったので大ホールが欲しい。
- ④市役所へ行けば何でもそこで済むように、店舗や郵便局などの複合施設を考えてほしい。コンビニやスタバがあったらいい。全館バリアフリーにしてほしい。わかりやすいスッキリした案内板を設置してほしい。
- ⑤若い職員の離職率が高いように感じる。人事体制に不安がある。
- ⑥嬉野市はふるさと納税で多くの方から寄附が集まり、現在は財源として支えてもらっているが、今後も同じようになるのかわからないので、財政運営を寄附金頼りにならないように気を付けていき、健全財政に努めてほしい。

### <経済>

- ⑦商店街がシャッター街になっており活気がなくさみしくなった。
- ⑧商店街は駐車場が少ないのが課題である。
- ⑨波佐見は民間企業が活性化して公園などを作り、若い世代がたくさん来ている。町としての後押しもあっているのではないか。
- ⑩足湯など人の目につくところに観光案内の看板等を作ったらよいのではないか。
- ⑪大村市では飲食店等に市の案内を見れるタブレットを置いてあった。嬉野市でも簡単に取り組めることから始めてみてはどうか。
- ⑫駅中心になるのか。商店街はどうなるのか。嬉野市にも良いところがたくさんあるので、色々なところに行ってもらえるような政策をうってほしい。
- ⑬温泉だけが観光ではない。自然もたくさんいいところがある。
- ⑭案内ボランティアをもっと活発にするべきである。
- ⑮鹿島駅の駐車場の利用者が減った。博多への通勤は武雄へシフトしたと思う。漸増にあった五町田小学校区は、人口流動すると思う。五町田は鹿島駅を利用圏としているため深刻。特急の増便は鹿島市とともに働きかけが必要と思う。

⑩地元企業において後継者が減少している。第三者継承支援等、国の支援はあるが、市としても啓発及び独自の支援等考慮してほしい。

#### <交通>

⑪デイサービスやごましお健康くらぶには、歩くことができている元気だからと、条件に該当せず利用できていない方がいる。色々なサービスから漏れている方を救うような仕組みを考えてほしい。

⑫交通弱者対策として、コミュニティバスを全地域に整備してほしい。特に山間部や田舎の地域は、近くに日用品を買える店がなく買い物難民への対応も必要。

⑬これまで在来線で長崎の大学に通学をされていた。在来線のダイヤ変更により新幹線での通学となるが、現状の新幹線のダイヤでは、通学には利用しにくいので改善して貰いたい。

#### <子育て>

⑭子育て世代は共働き世帯が多く、0歳児から預けたいニーズが多いと思う。保育園のキャパを増やすなどして、職場復帰しやすい環境づくりに努めてほしい。子育て環境が充実した嬉野市を目指すべきである。

⑮市が少子化対策として子育て世代への支援をもっとするべきではないか。

#### <災害>

⑯山に囲まれた地域で、近年は豪雨災害も多く、崩落危険区域がたくさんあるので大雨時は心配である。崩落防止対策や土砂災害対策を強化してほしい。

⑰昨年度の豪雨災害時に避難所へ避難した際に、女性目線や高齢者目線での避難所ができてないと感じた。佐賀県危機管理室に問い合わせをし、塩田町婦人会にて塩田防火クラブを立ち上げた。避難所設営や運営の視点を変えていく課題がある。

⑱災害対策基本法では、災害対応の際に「避難行動要支援者の避難行動支援に関する指針」にて、介護相談員や相談支援員とともに民生委員が、「個別避難計画」策定に関与するとされている。嬉野市の個別避難計画にも、区長・民生委員に相談してくださいとの記載がある。民生委員で専門的研修を受けていないのに関与することは難しい。

⑲災害等の警報が出た段階での避難が必要。災害弱者の人は、交通手段がない場合がほとんど。避難所に行くことができない。要支援者を避難所に誰が連れていくのか決まっていないので、判断に困る。

⑳避難時に老人なので移動手段がない。老人は避難時に薬は持っていけるが、布

団や食料は持っていけない。

#### <消防団>

②⑦消防団の活動は、ボランティアであるが、災害の時も訓練も出動要請がある。負担だけ大きく、やったもんが損な仕組みは改善すべき。入団を断られることが多いが、やった方が特になるようなことがないと不公平感を感じ、続けるのが難しい。消防団の勧誘も、一般の団員任せで限界がある。市としても勧誘については積極的に動くべきではないか。

②⑧消防団活動も地区活動も若い世代が少なくなっており、少人数のため一人にかかる負担が大きくなっている。

②⑨消防団について、地域の防災活動をするためには、若者の力が必要だが若者不足、土日仕事の方も多。

③⑩地域から若者が出て行く。消防団から逃げていく人もいる。

③⑪いわゆる幽霊団員が多い。普段の活動において部員の半分以下で活動することが多い。土日祝日関係なく仕事の団員もいる。日曜日の訓練に参加できない。

③⑫消防団組織や活動が時代に合わない。柔軟に組織の在り方を検討する必要がある。→活動したい人が、活動した対価を得られるような仕組みはできないか。

③⑬消防団活動において、来る人と来ない人の間で不公平感がある。

③⑭消防団を継続していくためにどうするか？ → 仕事と消防団のダブルワーク化。例えば本当に消防団活動に取り組みたい人（少数精鋭）に対してある程度の手当（報酬）を出して消防団活動をしてもらう様な考えが必要ではないか。農業と消防団活動。農業だけでは収入が足りないけど消防団活動で補助的な収入になる様な手当など。

③⑮消防団員の確保が近年の課題である。対象者はいるが、なかなか入ってもらえない。手当を直接渡すなどはあるが、そんな問題でもない。

③⑯消防団の会議やラッパ隊の訓練等が塩田でばかり行われているが、嬉野でもやってほしい。

#### <地域>

③⑰イノシシ、アナグマ被害が増大している。有害鳥獣対策においては以前より下火になってる感がある。さらなる対策、啓発に力を入れていただきたい。

③⑱新興住宅地がある地域は、よそから転入してきた方と古くから居住している方との融和ができていない。班の方も運営で苦労されている。区費は払ってもら



っているが、区役には不参加である。市としても転入手続きの際に、地域活動に関する呼びかけをしてほしい。班に入らない若い人が多いので、地域にどんな若い人がいるのか把握できていない。

③⑨婦人会も高齢化が進んでいるため、コミュニティと合同でしていかなくてはいけない。

④⑩婦人会や民生委員に投げかけるだけでは無く、今後はコミュニティと一緒にやっていくのが大事なのではないか。

④⑪立石児童公園入口のコンクリートが劣化しているため、修理をして欲しい。

④⑫野良猫が多いので困っている。区費で避妊手術をどうかという声が出ている。

④⑬かぶり木の問題があるが、高齢化が進み管理ができなくなっている。竹がかぶり、猪が出てくる。地主さんに対応してもらおうにも、お金の問題があるので難しい。

④⑭婦人会は社会教育団体で活動が見えにくく、分かりにくい。活動の周知が課題と考える。

④⑮子ども食堂等塩田の事業所で取り組まれているが、行政主導で嬉野でも行ってほしい。

④⑯消防団や婦人会、民生委員のなりて不足。役割が多くなりすぎるのも課題と考える。

④⑰空き家対策として民間事業者または個人の投資物件として不動産投資家へのアプローチができないか。また避難所や地域の人が集まれるスペースとして活用できないか。

④⑱区長の教育（講演会や誘導方法など）を行い、地域のリーダーシップをとってほしい。

④⑲婦人会になかなか参加してくれない。最近女性の活躍を感じてくれない。各地区に婦人部はあるが、全域での活動ではない。各地区の婦人部との連絡・連携はできていない。